

令和7年度金沢市農業活性化協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

本市の水田は、全体の約65%が湿田又は半湿田で占められていることから、水田利用については、水稻の単作が中心となっている。

転作作物の作付けの内訳としては、非主食用米が64%、野菜類21%、果樹5%、花き2%の順となっており、土地利用型の麦・大豆等の作付けがほとんどみられない。

水田農業を維持・発展させていくためには、需要に応じた生産を図りつつ、収益性の高い作物への転換等を図っていくことが必要であるが、湿田率が高いこともあり、転作作物の作付けが伸びず、保全管理や調整水田等が多くなっているのが現状である。また、中山間地域については、農業者の高齢化に加え、鳥獣被害が増加していることにより、営農意欲の減退や離農が深刻化している。

2 高収益作物の導入や転換作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

本市においては、大規模農家や農業法人等の担い手だけではなく、兼業農家や高齢農家など多様な経営主体が存在している。認定農業者や集落営農組織など地域の農業を支える担い手への集積、集約化を推進するとともに、金沢農業大学校修了生など新規就農希望者への就農支援により、多様な担い手の育成、確保を図る。

また、消費者や実需者の多様なニーズに即した売れる農作物づくりを進めるとともに、加賀野菜、金沢そだち等の金沢ブランド農産物の栽培面積の拡大や安定生産により、水田農業における収益力の強化を図る。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

地域の実情に応じた畑地化を進めるため、地域計画（旧「人・農地プラン」）で描かれる地域の将来像に配慮しながら、地域の担い手、関係団体との連携を密にし、畑地化の取組を進めることができるよう、水稻を組み入れない作付体系が定着している地域を把握し、畑地化に係る支援内容の情報提供を行っていき、畑地化支援を活用した畑地化や地域におけるブロックローテーション体系の構築を検討する。

4 作物ごとの取組方針等

市内の2,818haの水田について、適地適作を基本として、産地交付金を有効に活用しながら、作物生産の維持・拡大を図ることとする。

（1）主食用米

生産基準数量の範囲内で最大限生産する。

多様な需要に対応し、石川県オリジナルブランド米「ひやくまん穀」や「ゆめみづほ」等2次銘柄品種の作付けを拡大するとともに、うまい・きれい金沢産米づくり運動の推進による「売れる米づくり」を展開する。また、直播栽培や農地集積の推進などにより、省力・低コスト化を図っていく。

（２）備蓄米

備蓄米は、主食用米と同一品種で取組めるため、中・小規模の農業者でも対応が容易であることから、生産枠の確保を図り、作付けを進める。

（３）非主食用米

非主食用米は、現有の機械設備が活用できることから、品目毎の需要に応じて、最大限に作付けを推進する。

ア 飼料用米

収量性向上のため、多収品種の導入推進を図る。

イ 米粉用米

収量性向上のため、多収品種の導入推進を図る。

ウ 新市場開拓用米

海外における日本米需要が年々高まっていることから、輸出先での販売動向等を踏まえ、作付を推進する。また、安定的な需給体制を構築するため、複数年契約を推進する。

エ WCS 用稲

低コスト栽培による収益性の確保を図る取組を推進する。

オ 加工用米

加工用米は、主食用米と同一品種で取組めるため、中・小規模の農業者でも対応が容易であることから、生産枠の確保を図り、作付けを進める。また、安定的な需給体制を構築するため、複数年契約を推進する。

（４）麦、大豆

排水不良など土壌条件等により、品質や収量に課題が見られ、市内における麦、大豆の作付けは限られている。このため、品質・収量の安定化を推進し、担い手へ集積を進めながら、作付けの維持及び段階的な拡大を検討する。

（５）そば

中山間地域を中心に生産を推進していく。

（６）地力増進作物

作物の単収の回復及び増加を目的に、地力増進作物（フェアリーベッチ、マリーゴールド、ソルガム）の導入を推進していく。

(7) 高収益作物

ア 産地戦略作物

水稻農家や集落営農組織でも取り組みやすく、機械化対応が可能である「ねぎ」「かぼちゃ」「ブロッコリー」「たまねぎ」の4品目のほか、加賀野菜15品目のうち、たけのこを除く14品目（れんこん・金時草・くわい・加賀つるまめ・せり・ヘタ紫なす・金沢一本太ねぎ・赤ずいき・さつまいも・源助だいこん・金沢春菊・二塚からしな・加賀太きゅうり・打木赤皮甘栗かぼちゃ）を産地戦略作物と位置づける。近年、高齢化による離農や市街化による作付面積の減少が課題となっているため、農協や関係団体と連携して、生産量の維持・拡大、担い手の育成を図る。また、希少8品目（くわい・加賀つるまめ・せり・ヘタ紫なす・金沢一本太ねぎ・赤ずいき・金沢春菊・二塚からしな）については、後継者育成や技能の伝承を推進し、重点的に生産を振興する。

イ その他地域振興作物

「金沢そだち」の5品目（だいこん・なし・すいか（すいか・小玉すいか）・トマト・きゅうり）、じねんじょ、キク、コギク、さといも、葉ボタン、フリージア（エアリーフローラ）、ルビーロマン、ストック、りんごを地域振興重点作物に位置づけ、作付を推進する。また、農業者の高齢化による離農や市街化による作付面積の減少が課題となっているが、JAなどの直売所により、少量でも販売できる環境が整備されていることから、適地適作を基本に、地域の実情に合わせた作物の生産を図り、農家所得の向上を図る。

ウ 中山間地域

市内中山間地域においては、鳥獣害対策として電気柵の設置や農地周りの草刈りを行うなど、農業者の労働時間が年々増加していることから、平坦地域と比較して、農業生産条件の格差が大きくなってきており、営農意欲の減退や離農が深刻化している。そのため、高収益作物への転作を推進し、加算措置を行うことにより、生産拡大を図る。

エ 不作付地の解消

現行の不作付地（88ha）について、高収益作物の作付けによる解消に努める。